

令和6年度普及指導活動評価の結果と対応

北多摩農業改良普及センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
① 1003 都市環境と調和した農業の推進	A 〈評価内訳〉 A 6人 B 0人 C 0人	(1) 環境保全型農業は消費者の関心も高く、都市地域ならではの課題として良い設定である。東京都エコ農産物認証の更新・普及において支援が行われており、認証を更新しない農家についても理由を把握できている。 (2) 都市部での獣害対策として、電気柵だけでなく多角的にアプローチされている。都、市、J A、研究機関と連携した取組であり、農業者に対しても講習会や広報による十分な注意喚起が行われている。	(1) 東京都エコ農産物の認知度向上のため、小売店との連携や、SNSを活用したPR活動など、生産者・消費者双方へ働き掛けてほしい。認証を受けることによる農産物の収益性、メリット向上への対応を期待したい。環境保全型農業を推進するため、高付加価値化、ブランド化、補助金の活用を都全体で取り組んでほしい。 (2) 普及指導計画として獣害対策の達成率が高いことは理解できたので、今後は実証実験の範囲や普及範囲を広げてもらいたい。国や都の研究機関、隣接する他県とも協力し、成果の共有や連携を深めてほしい。今のところ導入した技術で害獣の侵入を防止できているが、侵入された場合の次善策など更なる技術進化と生産者への指導が必要である。	(1) 普及センターでは、認証取得者の農産物流通促進及び制度の認知度向上に向け、都庁関係部署との連携を強化し、下記の取組を実施する。 ・普及センターによる認証者への個別指導を通じ、農産物のブランド化やSNS等の活用及び販路開拓などへの取組を支援する「 <u>チャレンジ農業支援事業</u> 」の導入を積極的に促していく。 ・都庁関係部署と認証の非更新理由を共有するとともに、消費者の認知度向上を図るためのエコ農産物販売拠点の設置や、エコ認証に取り組むために必要な資材の経費補助等の事業立ち上げを働きかけていく。 (2) 獣害対策では取組が進んでいない地域での活動を強化する。また、これまでに実証した対策技術はマニュアルとしてまとめ、管内の生産者や関係機関に配布することを次年度の普及計画に位置付けた。さらに、侵入を許した場合は、侵入経路を塞ぐ手段を講じるとともに、狩猟免許を持つJ Aとの情報の共有化を進め、捕獲体制の強化を進めていく。 国や都の研究機関や他県との連携については、革新支援専門員を通じて意見交換や研修の場を設け、技術向上に向けた情報等の共有化を図り、連携の強化を深めていく。
② 1008 軟弱野菜の総合防除技術の確立と普及	A 〈評価内訳〉 A 6人 B 0人 C 0人	病虫害に対する現状の把握、分析が適切と思われる。ほ場周辺の宅地化が進み化学合成農薬が使いにくい中、有意義なテーマだと感じた。特に、農業者との綿密な連携ができており、丁寧な圃場巡回調査によって品目別に計画的にデータをまとめ、有効的な解決方法を提案していることがよく分かった。普及指導基本計画の到達目標を達成し、計画期間内でのマニュアル完成が見込まれるところまで来ている。	導入した技術の効果を測定するために指標を示す必要があるのではないか。特に、費用対効果や、夏場の労働時間（特に日中）の削減について検討してみてはどうか。 展示ほを設定する際には、普及センターからの要望を農家に気兼ねなく伝え、目的とするデータを収集してほしい。 抵抗性品種の導入は効果が高いので、種苗メーカー担当者を現地に招くなど積極的に普及してほしい。また、様々な防除技術の組合せも重要である。 検討した防除技術は既に他地区で普及している技術もある。よい技術は特定の地域だけでなく、広く啓発してほしいし、技術のアップデートもお願いしたい。 環境保全につながる東京都エコ農産物の普及の視点とのバランスを取りながら総合防除を進めてほしい。	新たな技術を導入する取組では、これまでも慣行技術との効果の比較や経費について費用対効果の検証を実施してきた。今後は、労働時間や労働負荷も検証項目とし、効果測定の指標作りについては、革新支援専門員や研究機関との協力のもと取組を進めていく。 展示ほの設置にあたっては、依頼する農業者に対し、計画、内容、求めている成果などについて丁寧な説明を行い、普及センターの意図を良く理解してもらったうえで取組を進めていく。 品種の導入にあたっては、必要に応じて種苗メーカーを現地に招き、メーカーが持つ知見を現場で最大限活かすことができる取組にする。また、一つの技術では対応しきれない課題では、複数技術の組合せを検討する。 各普及センターの成果は「とうきょう普及インフォメーション」にまとめ、年4回発行しており農業振興事務所のHPより閲覧可能となっている。また、普及DXの取組により、各普及センターの技術情報が職員間で共有できるシステムを構築中である。 総合防除対策に取り組む生産者には、東京都エコ農産物認証制度を紹介し、認証に向けての誘導を積極的に働きかけていく。

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

- ・獣害対策については、イノシシやシカなど大型哺乳類による被害も広がっており、危機感を持って取り組んでももらいたい。
- ・総合防除技術は、消費者にとって安全安心につながり、農業者の安全にも有効な手段なので、今後も支援を続けてほしい。
- ・本委員会での説明では動画を見せるなど分かりやすいように工夫されていた。日常の普及活動の中でも、生産者向けに動画配信など活用できるとよいと思う。